



陣屋小だより

学校教育目標

かしこく
やさしく
たくましく

令和6年10月1日
第6号

埼玉県学力・学習状況調査の結果について

校長 保戸田雅之

朝晩の温度変化が大きく、体調管理が難しい季節になりました。セミの鳴き声から秋の虫の声にいつの間にか入れ替わり、秋の訪れを感じます。

先週は、多くの保護者の皆様に授業参観にお越しいただき、ありがとうございました。2学期も一か月が過ぎ、まもなく運動会の練習が始まります。同時に、朝のコンサートや校外学習などの取組も進んでいます。それぞれの活動に万全の体制で臨めるよう、体調管理等ご協力をお願いいたします。

さて、先月、4年生以上のご家庭には、5月に行われた埼玉県学力・学習状況調査の個票（6年生は全国学力調査の個票も）を配付しました。そこで、埼玉県学力・学習状況調査結果の全体的な傾向をお知らせします。

【表1】各学年教科別平均正答率の比較

	埼玉県	新座市	陣屋小
4年 国			▼
5年 国			▼
6年 国			▼
4年 算			▼
5年 算			▼
6年 算			▼

【表2】学力を伸ばした児童の割合

	埼玉県	新座市	陣屋小
5年 国			▼
6年 国			◎
5年 算			▼
6年 算			◎

【表1】は、国語・算数の平均正答率を埼玉県、新座市と比較したものです。どの学年も県、市の平均を下回る結果でした。

【表2】は、学力を伸ばした児童の割合を県、市と比較したものです。6年生は一年間で学力を伸ばした児童の割合が高く、個々の伸び率も高い結果でした。

さらに内容を見てみると、下記のような傾向が分かりました。

【国語の弱点】

- ・文章の内容をとらえる（読み取ること）
- ・自分の考え等を書くこと（記述）

文章の内容を読み取る力は、読書量の影響が大きいと言えます。読書で多くの文章に触れ、読むことに慣れること、また、授業の中で、自分の考えを書く機会を増やすことも大切にする必要があります。

【算数の弱点】

- ・グラフや表などのデータを読み取ること
- ・図形の特徴や角度に関する問題

グラフや表などのデータを読み取り、そこから分かることを伝え合ったり、図形の特徴について説明したりする力を伸ばす取組が必要だと分かりました。また、問題文が長く情報量が多くなると、正答率が下がり、無回答率も増える傾向があります。これも、読む力が影響していると言えます。

この学力調査では、日頃の学習の取組や生活についての傾向をたずねる「質問紙調査」も行われています。その集計結果を埼玉県と比較すると、4～6年生に共通する傾向として、タブレット端末を活用した学習が進んでいることが分かります。一方で、読書量が少ない（一か月間の読書が0～2冊の割合が高い）ことも分かりました。やはり、読書量と学力は相関関係が高いと思います。

ただし、これらは全体的な傾向の一部であり、課題は個人差があります。個票を参考に、家庭学習や読書の取り組み方についてもご家庭で話し合ってみてください。学校でも、分析結果を日々の授業改善に活かしてまいります。

読書で得られる効果とは？

読書の習慣は、学力向上に欠かせません。一般的には次のような効果が期待できるそうです。

- ・集中力や知識や思考力が身につく
- ・好奇心や情緒や想像力が育つ
- ・文章問題や語彙力に強くなる
- ・コミュニケーション能力や自我意識が向上する

読書で知識を得ることにこだわり過ぎず、本に親しむことから始めましょう。

